

弘前藩の刑法典（二十二）——文化律——

橋本 久

目次

はじめに

一 安永律

〔第六号〕

付1 『御刑罰御定』（安永律）

〔第十三号〕

付6 『要記秘鑑』三十三 安永四年八月二十六日条

〔第二十号〕

二 寛政律

（一）『御刑法書之写』

〔第七号〕

（二）『寛政律』（その一）

〔第八号〕

（三）『寛政律』（その二）

〔第十一号〕

（四）『寛政律』（その三）

付2 『隠商過科定牒』

付3 『人別方御用取扱条例』『人別調方取扱条例』

〔第十三号〕

（五）『寛政律』（その四）

補訂1 『藩法史料集成』所収「弘前藩御刑法牒」

〔第十四号〕

（六）『寛政律』（その五）

付4 『諸取引御触書』『公義御書付留』『公義御触書留』

付5 （参考）『公事訴訟取捌』

〔第十五号〕

（七）『寛政律』（その六）

〔第十七号〕

（八）『寛政改正御刑法帳』

〔第十九号〕

（九）『寛政改正 刑律』

〔第二十号〕

付6 『要記秘鑑』三十三 〔第十七・十九・二十号〕

(十)	『寛政九年 刑法』	〔第二十一号〕
(十一)	『法律秘略』	〔第二十二号〕
付7	『要記秘鑑』 三十四	〔第二十一・二十二号〕
(十二)	〔寛政律〕	
付8	『御用格』 二十一	〔第二十三号〕
(十三)	『和律』	
付9	『御用格』 二十二	〔第二十五号〕
(十四)	『御刑法牒』	
付10	『御用格』 二十三・二十四	〔第二十七号〕
(十五)	『刑律』	〔第二十九号〕
(十六)	『旧津輕藩 刑法』	
補訂2	『隠商過料定牒』	〔第三十一号〕
三 文化律		
(一)	『刑法』	〔第三十二号〕
(二)	『御刑法牒』 (その一)	〔第三十三号〕
(三)	『御刑法牒』 (その二)	〔第三十五号〕
(四)	『御刑法帳』	〔本 号〕
(五)	『文化律』	

三 文化律

(四) 『御刑法帳』

凡 例

- 一 原本は弘前市立図書館所蔵本を用いた。
- 一 字体・字配りは、できるかぎり原本にしたがつた。
- 一 異体字・変体仮名については、かならずしも原本通りではない。
- 一 原本の行末が次行に及んだ場合は、行末を示すために「」をくわえた。
- 一 原本の丁数・表裏を各終行末に「」で示した。
- 一 便宜上、各條に一、二、三、……等の数字を付した。
- 一 塗抹の箇所は、左に「」を付した。
- 一 他に適宜書き加えた箇所は「」で示した。

資 料

「三三」 一盜物質ヲ取レ者并預リテ者又賣買致レ者	「六六」
「三四」 一金子遺捨ハ飛脚	「六六」
「三六」 一牛馬盗人	「七七」
「三八」 一田畑之穀物を盜取レ者	「七四」
「四一」 一巧事請事重キ様ナリ事致レ者	「七七」
「四二」 一役人を似候者	「七五」
「四三」 一似甘葉種商賣致候者	「七九」
「四四」 一賄受候斗不筋捌無之者	「八二」
「四五」 一賄受候斗不筋捌無之者	「八四」
「四六」 一不筋之財物を取レ者	「八五」
「四七」 一捨子之義付御仕置之事	「八七」
「四八」 一捨子之義付御仕置之事	「八八」
「四九」 一無宿者御片付之事	「九一」
「五〇」 一不縁之妻を理不盡奪取レ者	「九二」
「五一」 一變死之者内證ニ而葬レ寺院	「九三」
「五二」 一倒死并手負病人拾物等有之不訴出者	「九四」
「五三」 一以宿意主人或ハ主人之親族を殺又ハ為手負レ者	「九五」
「五四」 一以宿意親或ハ親族ヲ殺又ハ為手負レ者	「九六」
「五五」 一離別之妻江疵付候者	「九七」
「五六」 一辻切致レ者	「九八」
「五七」 一一家焼失之節親人	「九九」
「五八」 一一家焼失之節親人	「一〇〇」

「一〇」 一惡黨者訴人之事	「九」
「一一」 一惡黨者訴人之事	「一〇」
「一二」 一惡黨者訴人之事	「一一」
「一三」 一惡黨者訴人之事	「一二」
「一四」 一惡黨者訴人之事	「一三」
「一五」 一惡黨者訴人之事	「一四」
「一六」 一惡黨者訴人之事	「一五」
「一七」 一惡黨者訴人之事	「一六」
「一八」 一惡黨者訴人之事	「一七」
「一九」 一惡黨者訴人之事	「一八」
「二〇」 一惡黨者訴人之事	「一九」
「二一」 一惡黨者訴人之事	「二〇」
「二二」 一惡黨者訴人之事	「二一」
「二三」 一惡黨者訴人之事	「二二」
「二四」 一惡黨者訴人之事	「二三」
「二五」 一惡黨者訴人之事	「二四」
「二六」 一惡黨者訴人之事	「二五」
「二七」 一惡黨者訴人之事	「二六」
「二八」 一惡黨者訴人之事	「二七」
「二九」 一惡黨者訴人之事	「二八」
「三〇」 一惡黨者訴人之事	「二九」
「三一」 一惡黨者訴人之事	「三〇」
「三二」 一惡黨者訴人之事	「三一」
「三三」 一惡黨者訴人之事	「三二」
「三四」 一惡黨者訴人之事	「三三」
「三五」 一惡黨者訴人之事	「三四」
「三六」 一惡黨者訴人之事	「三五」
「三七」 一惡黨者訴人之事	「三六」
「三八」 一惡黨者訴人之事	「三七」
「三九」 一惡黨者訴人之事	「三八」
「四〇」 一惡黨者訴人之事	「三九」
「四一」 一惡黨者訴人之事	「四〇」
「四二」 一惡黨者訴人之事	「四一」
「四三」 一惡黨者訴人之事	「四二」
「四四」 一惡黨者訴人之事	「四三」
「四五」 一惡黨者訴人之事	「四四」
「四六」 一惡黨者訴人之事	「四五」
「四七」 一惡黨者訴人之事	「四六」
「四八」 一惡黨者訴人之事	「四七」
「四九」 一惡黨者訴人之事	「四八」
「五〇」 一惡黨者訴人之事	「四九」
「五一」 一惡黨者訴人之事	「五〇」
「五二」 一惡黨者訴人之事	「五一」
「五三」 一惡黨者訴人之事	「五二」
「五四」 一惡黨者訴人之事	「五三」
「五五」 一惡黨者訴人之事	「五四」
「五六」 一惡黨者訴人之事	「五五」
「五七」 一惡黨者訴人之事	「五六」
「五八」 一惡黨者訴人之事	「五七」
「五九」 一惡黨者訴人之事	「五八」
「六〇」 一惡黨者訴人之事	「五九」
「六一」 一惡黨者訴人之事	「六〇」
「六二」 一惡黨者訴人之事	「六一」
「六三」 一惡黨者訴人之事	「六二」
「六四」 一惡黨者訴人之事	「六三」
「六五」 一惡黨者訴人之事	「六四」
「六六」 一惡黨者訴人之事	「六五」
「六七」 一惡黨者訴人之事	「六六」
「六八」 一惡黨者訴人之事	「六七」
「六九」 一惡黨者訴人之事	「六八」
「七〇」 一惡黨者訴人之事	「六九」
「七一」 一惡黨者訴人之事	「七〇」
「七二」 一惡黨者訴人之事	「七一」
「七三」 一惡黨者訴人之事	「七二」
「七四」 一惡黨者訴人之事	「七三」
「七五」 一惡黨者訴人之事	「七四」
「七六」 一惡黨者訴人之事	「七五」
「七七」 一惡黨者訴人之事	「七六」
「七八」 一惡黨者訴人之事	「七七」
「七九」 一惡黨者訴人之事	「七八」
「八〇」 一惡黨者訴人之事	「七九」
「八一」 一惡黨者訴人之事	「八〇」
「八二」 一惡黨者訴人之事	「八一」
「八三」 一惡黨者訴人之事	「八二」
「八四」 一惡黨者訴人之事	「八三」
「八五」 一惡黨者訴人之事	「八四」
「八六」 一惡黨者訴人之事	「八五」
「八七」 一惡黨者訴人之事	「八六」
「八八」 一惡黨者訴人之事	「八七」
「八九」 一惡黨者訴人之事	「八八」
「九〇」 一惡黨者訴人之事	「八九」
「九一」 一惡黨者訴人之事	「九〇」
「九二」 一惡黨者訴人之事	「九一」
「九三」 一惡黨者訴人之事	「九二」
「九四」 一惡黨者訴人之事	「九三」
「九五」 一惡黨者訴人之事	「九四」
「九六」 一惡黨者訴人之事	「九五」
「九七」 一惡黨者訴人之事	「九六」
「九八」 一惡黨者訴人之事	「九七」
「九九」 一惡黨者訴人之事	「九八」
「一〇〇」 一惡黨者訴人之事	「九九」

一 錢五ノ目以下 三十日限 同五ノ目已上 六十日限
 一同十ノ目已上 百日限

右之通濟方申付日延等願申出ニ於テハ時宜ニ應シ日延申付其
 上濟方不埒ハ、身代限可申付事

但濟方申付ケ而モ不埒之輩有之ハ、急ギ咎可申付事且又
 不埒之貸方之類ハ遂吟味品ニ寄貸主モ可相咎事

連判之證文有之諸道具

仲間事ニ付無取上

徳用割合請取ケ者

一 無盡金錢 證文有之共仲間ニ相成ケニ付取上申間敷事

一 日寄附込帳ニ記ケ借金印形無之分 無取上

一 宛所并年号無之證文 無取上

一 證文之末利足定書載有之其所ニ印形無之利足 無取上

一 家質金質地金并諸借金宛所違之以證文於訴出ハ 無取上

但證文讓受ケ由申ケ共證據無之者ハ取上申間敷事

一 凡而家質并諸借金出入訴出ケ節式歩已上之利足ニハ、式歩

ニ直シ濟方可申事

〔三三〕 借金銀分散申付方之事 (四三)

一 金銀借方之者身代分散之節貸方之内少々不得心之者有
 之ケ由願出ケハ、分散請ケ様申付若不得心ニハ、得心之者斗五分

散割合為相渡可申ケ尤借方之者身上持次第割合請ケ者モ

不請者と一同ニ追而相掛ケ様可申渡事

一家質金 何ケ年已前ニ而モ金高ニ應シ濟方可申付事

但日限之上於滯ハ家質可為相渡日限之内ニ宿賃モ濟

方可申付ケ尤年期之内ニ而モ宿賃滯ニケ月過訴出ケハ、取
 上可申事

〔四四〕 家質金滯日限定

一 錢老貫目以下 卅日限 老貫目已上 四十日限

一 三貫目已上 六十日限 五ノ目已上 八十日限

一 拾貫目已上 百五十日

但拾五ノ目已上ハ見合日限可申付事

寺附之品書入又ハ賣渡 借主退院

以證文金子於貸借ケ者 證人寺院ニハ、禁足俗人ニハ、戸

但銀主ハ不埒之貸方ニハ、濟方不及沙汰

一 以儲成質物借ケ金錢 家質ニ準金高ニ應シ濟方日限可申付

但日限之上於滯者質物流シ可申付事

為替金不相渡不埒之訳 自分預之物私曲之ケ条ヲ以て刑

銀主ヲ於申出者 を加可申事

「家質并諸借金有之者 上ノ諸拝借有之上納相立不申家

藏家敷 上へ御取上被仰付外銀主へ分散物無之借方不埒之
者盜賊 準三等を減刑を加可申事尤三十畝十里追放^二而許可申事

〔五〇〕二重質二重書入二重賣御仕置ノ事 〔四五〕

一田畑屋敷二重質入致^レ者 質入主 廿四畝五里追放
名主村役 十八畝所拂
加判人 所拂

但二重書入も同断田畑屋敷建家等ハ初之銀主江相渡後之銀
主へハ家財取上可相渡尤名主村役加判人馴合禮金取^レハ、
廿四畝五里追放後之銀主乍存質地出入等證文取^レニ於て^{三才}

右同
ハ三里追放

一諸商賣物代金請取其品不渡

錢老賣目^二已上雜物代

外江二重賣又ハ取次可遣品質ニ置

錢ニ積^レり老^レ目^レ已上

并賣拂或金錢横取致^レ者

死罪

但先入牢申付代金又ハ商賣物^二而なりとも於相濟^レ老^レ目^レ

已上ハ三里追放老^レ目^レ已下ハ所拂

右買取^レ者若不念之仕方於有之ハ其品取上可申事

〔六〇〕以偽證文米金錢貸借致^レもの御仕置之事 〔四八〕

〔御定書〕

一金錢借用之證文及露頭候而ハ難立筋又ハ支配頭

或申訳難立者ニ名を偽文言之内へ書入金錢借^レ者

但右之趣乍存貸^レ者死罪

〔四九〕

〔七〇〕關所ニ可成田畑家屋敷ヲ隱置^レ村役町役御仕置之事
御定書附

關所ニ相成田畑家屋敷 村役名主役義取放過料三^レ文
を於隱置ハ
五軒組合過料三貫文

但不存ニおゐてハ叱リ

公名主輕追放組頭所拂

〔五〇〕

〔八一〕人別帳ニも不加他之者差置^レ者御仕置之事

右同
人別帳ニも不加他之者

差置候者 戸^レ廿日

差置^レ者

名主村役 叱り

〔御定書〕

當人并差

置^レ者所

拂名主重

過料組頭

所拂

〔宋書〕

〔九〇〕煩^レ旅人ヲ宿送致^レ者御仕置之事

右同
煩候旅人療治を不加上 旅籠屋所拂

〔五一〕

〔宿次送出〕ニ於てハ

村役町役々儀取上

〔御定〕

年寄重

過料又

脇道等二

テ間ヤ無

之ハ名主役

義トリ放

〔未書〕

〔十〇〕 誤證文押て取申間敷事

〔二一〕

御定書

一 相手得心不致に押而誤證文取申間敷候縦令誤證文差出
とも其證文ニ不拘理非之次第裁許可申付事

〔未書〕

〔十一〕 舊惡御仕置之事

〔二二〕

右同

一 逆罪之者 邪曲ニ而人を殺し者
致徒黨人家江押込候者

火附

〔二三〕

一 都而御法度を背き死罪已上之科ニ可被行者之事
追剥并人家江忍入し者

但役義ニ付私欲押領致し者ハ輕くとも相應之咎可有事

一 惡事有之永ク尋申付置し者

右ハ旧惡に共御仕置相伺可申し此外之科一旦惡事致し共其後
相止し由申出外之沙汰も無之ニ於ハ十二月已上之旧惡ハ不及咎事

但十二月内ハ吟味に取懸十二月已後吟味相済し共旧惡ハ

不相立事

〔未書〕

〔十二〕 輕キ惡事有之者出牢之上不及咎事 〔二九〕

御定書

一 過料戸等可申付輕キ惡事有之者吟味之内六十日已上入牢申

付置し者之分ハ出牢之節右咎可申付し得共日數入牢致し二付

有免之旨申渡別ニ不及咎同列之内不致入牢科者相當之咎

可申付事

此条穿鑿スヘシ

但所拂役儀取上ケし類ハ何ヶ月入牢し共有免之沙汰無之事

新律御例

一 五敲已下御仕置ニ可成者吟味之内拷問申付其者御片付之節外

證據有之五敲已下之罪科ニ相違無之しハ、追而咎之沙汰ニ不及事

〔未書〕

〔十三〕 名目重相聞へし得共實ニ於てハ強て人之害ニ不成者

御定書

〔一四〕 罪科輕重格別之事

〔三〇〕

一 似せ藥種致商賣し者死罪其外之似せ物不懸命義ハ咎輕キ事

一 舛舛私ニ造りしとも輕重大小本様ニ無相違ハ他之損失無之故

其咎輕キ事

一 物而制禁を犯しし者有之時證據を以て為可訴謀書を認或ハ
人之作り名に判を押し類ハ欲心を以て人を欺けハ、格別之事

右之類名目ニ不拘其趣意ヲ糺可評義事

〔未書〕

〔十四〕 吟味之内外之惡事相聞し共旧惡御定之外ハ

不及相糺事

〔三一〕

一 惣て吟味事之内外ニも惡事有之趣相聞江_レ共旧惡不被免
品々ハ格別其餘之惡事ハ不及沙汰最前_ニ取懸_テ吟味_ヲを詰
相應之御仕置可申付事 (五ウ)

(宋書(ママ))
十四〇 關所之事

(一八)

一 關所之事敲三千已上利欲ニ拘_レ科ハ其利欲之輕重ニ依田畑
或ハ家屋敷家財等關所可申付事重罪ニ而も利欲に不拘者
ハ其ヶ条之處ニ出_レ外關所不可致事

△御定書ニ

磔 火罪 獄門 死罪 遠島 重追放

右御仕置申付_レ者ハ田畑家屋敷家財とも欠所可申付中追
放田畑家屋敷關所輕追放ハ田畑斗欠所可申付家財ハ中
輕共不及欠所吟味之内致病死_レとも吟味詰御仕置可申
付者ハ決置_レ上致病死_レハ、伺可成筋之御仕置之者伺之上
欠所可申付事 (六オ)

但下手人ハ不及欠所此外專利欲に拘_レ類ハ江戸十里
四方追放并所拂ニ而も田畑家屋敷關所可申付貪たる儀
於無之ハ不及欠所

右之通_ニ御座_レ得共關所之義ハ寛政之御例之通_ニ而可然存_レ付
御定書
一 百姓田畑家財共欠所ニ相成_レ節田畑質地ニ取置_レ旨申出_レハ、

證文吟味之上村役聞届之印形相違於無之ハ質入之

田畑拂代金之内を以て質ニ取_レ者ハ元金可相渡金高不足
ニ而_レハ、地面ニ而可相渡事若又年貢滯有之_レ者右質入
之地面拂代金を以て先年貢引取質取_レ主ハハ殘金之
内ヲ以て元金可相渡尤金高不足之分ハ銀主可為損失事

但年貢滯ニ限上_ニ諸拝借等多有之百姓田畑欠所ニ相成
候質ニ取置_レ旨銀主_ヲ申出_レ而も上_ニ之諸拝借上納分ニ
引足不申分ハ銀主之損失たるへき事

御定書附的
一 御仕置に成_レ者關所之節當人貸置_レ金子并賣掛金子手
形帳面等有之_レ共借主_ニ不及上納事

但借主右金子之義ニ付不埒之義御座_レハ、取上可致上納事
右同

一 町在共ニ家屋敷質ニ入_レ者御仕置ニ成右家屋敷欠所之節
金子請取度旨願出_レハ、證文吟味之上村役町役未印相違無
之ニおゐてハ質地田畑同前可申付事

但上_ニ諸拝借有之取上之家屋敷上納分ニ不足分ハ銀主
損失たるへき事若殘金有之_レハ、銀主ハ可相渡事

(宋書)
十五〇 身代限申付方之事

(一九)

御定書附的
一 田畑家屋敷家財 取上

但他ニ家藏有之_レ分も取上尤銀主立合吟味之上金高不足

候ハ追而身上成立次第可相渡旨申付金高餘分於有

之ハ滯金に應し為相渡可申付田出米滯身代限申付ハ節

田畑屋敷ハ銀主ハ渡置ハ上年々作徳を以て滯金相濟二

おゐてハ地所ハ地主江為相返ハ事

嘗ハ私田畑證文上置申付錢金何程御貸被下ハ返済之義ハ年々田

上ハ田出増米一反歩何程ツ、御返済可申付借金致右不返済之者を云

右同
一借家者ニハ、家財取上

但地借ニ而家作自分ニ致シハ、家并家財共取上可申事

〔朱書〕
〔三三〕
一隱田畑御仕置之事

寛政ノ御例酌
一隱田畑所持之者 隱田畑御取上ケ一年分之年貢代錢ニ差

積御藏之財物を盜取ハケ条ニ準シ

作徳米ト申ハ無之隠たる
反歩之年貢なり 刑を加可申事

但作徳米於所持之者一年之年貢為差出可申事

御俵見之節惡地抔 老反歩五反歩迄五畝五反歩毎ニ

振替見セハ者 一等重く可申付事尤高多ハとも

十五畝ニ而許可申事

〔十七〕
一質田并年賦田畑年限中 田畑質入年賦引當小作取捌之事 〔三四〕

御定書酌
年限期明キハ日ハ六ヶ月過訴出

定之米錢返済無之ハ、候ハ、流地六ヶ月迄ハ請戻可申付事
田畑可相渡之證文

公年期明十年過ハ質地流但流之文言無之證文ハ年々季明キ十ヶ
年ノ内訴出ハ、済ハ可申付アリ左ハ却テ金事好等之振
毛可有故酌又公一ヶ季二年期明キ不覺戻ハ、流地下申部ハ二
ヶ月シキハ、流地トナリ 〔八才〕

右同
但引當地證文も右同斷

一年賦引當田畑一旦沙汰之上銀主借用之米錢日限を以て済方

申付ハ後不相済ハ、地面銀主江可為相渡事

右同
一又年賦又引當田畑元 元地主ハ返済方可申付事

地主加判有之ハ證文

但又年賦又引當借増之分ハ又年賦又引當致ハ者ニ返済方可

申付事 假令ハ田畑一反歩年賦引アテ等ニ差遣錢ヲカレハ時其貸タルモノ又外ハ其證文

ヲ以て錢ヲ借りハ時取扱ノ義出来ハ得ハ田畑ハ最初ノ地主ニ後ノ出銀ノ

者ハ差遣可申ナリ又入ノ銀主借レハ又入ノ者ヨリ可差出事左ハハ田畑ハ

損傷ナシ元地主ハ返ルナリ是ハ又入ノ節最前ノ地主又入ノモノト相談ニテ致シ

タル事故如此サハク

一寺社知行地并御除地屋敷等

譲渡或ハ質ニ入ハ寺社 寺院ハ退院社家ハ社官御取放押

料三貫文

但知行地寺社所持之分ハ

定之通可申付事

譲渡年賦引當等ハ御藏地定 〔八才〕
公ニ江戸ヨリナ里遠取モハ重過料トアリテ
過料ハ定スラヌ

右同

小作證文無之共年賦證文

年賦米錢立増米共返済可申付

小作人之儀書加有之ハ、

公質地日限ノ通申付其ノ上ハ、身代限可申付トアリ

田方ヲ年賦ニ入米錢ヲカリ其田邊ヲ自分預リ作付節

右同

一田畑田出増米滞ト者

御定日限之通申付其上相滞トハ、身代限可申付事

但家守小作米錢とも滞ト者當人請人共濟方申付其上滞トハ、兩人共身代限可申付事

〔古書〕
〔廿五候以下ハ廿日キリ已上ハ六十日キリ段々アリ〕

一年賦田畑之年貢斗銀主

年季之内ニハ、定法之通證文仕直させ年賦置主トリ

差出諸役ハ地主ノ相勤ト證文

年賦取主過料三貫文

〔書〕「引當ト違先借不調達ニテ證文ハ

加判人并役迄過料壹ノ貳百文ツ、

銀主ヘ押ラレ田品共銀主ノ手ニ入タル事ナリ」

但年季明キトとも六ヶ月之内ニハ、地面可為請戻年季明キ

六ヶ月過ト出入ニハ、銀主地面為相渡本文之通叱可申付事尤年貢

諸役共ニ銀主ノ相勤ト様證文為仕直可申事

〔古書〕
〔八公〕

年季明キトテニケ

月過トハ、定法ノ通流地申付トアリ

年季明キトハ、地面可為受戻トアリ

右同

一永代渡之田畑ニも前条之通證文有之分ハ右同断仕直可申付事

御定書觸酌

一年賦引當ニ取置ト地面故半分直段ニ致シ

年賦地之高不殘年貢諸役共三元地主ノ相

勤候證文

但書前条同断

〔古書〕
〔廿五候ノ仕〕

方也重過料ニテ可然

〔書〕

一質地田畑年季中元米錢

借高之内返済致年季明キ殘

米錢有之由於及出入者

〔書〕「年季明キ六月之内ニ有之ハ、受戻ト様可申付事六ヶ月過ト出入ニ有之ハ、内返

済ノ米錢地主ヘ為相返流地右ノ外ハ證

文ヲ以テ時宜御沙汰被仰付様 四奉行」

前条同断

内返済之米錢年割ニ致シ壹ケ年返

済致ト者ハ一ケ年延右ノ格ニ而年延ニ為

致年限中受戻ト様申付其上返

済滞トハ、内返済之米錢地主

ヘ相返せ地面ハ銀主ノ可為相渡事

〔書△〕「隠田畑ハセツ盗ニ準重シ 用捨可致事」

坪違ハ十五申領ハ八十二止ル

但年来之小作米可令返事

〔宋書〕
廿〇 田畑屋敷共坪違讓渡ハ者御仕置之事 〔三七〕

追加
一 田畑屋敷共坪違讓渡ハ者 證文之通地面相糺請取人江相渡ハ
〔書△〕「私曰不吟味ノ料ハ隠田畑坪違檢見ハ
イトモ雖不免カシ田畑ハ自然ニヒラフ
坪違一年限 事讓渡之坪違ハ
永世ニ力、リ御帳ノクルヒ不輕ノ罪也
故ニ不吟味ノ罪アリ」

上渡之人所持之田畑取上十八畝所拂
村役ハ役義取放過料耆ハ八百文加
判之者過料耆ハ五百文 〔二一才〕

但當人耆人之手段ニ而村役加判人雖不存不吟味之故を以
過料六百文ツ、

〔宋書〕
〔三三〕

〔廿一〕〇 双方申合勝手ニ寄田畑所持之者御仕置之事

追加
双方申合勝手ニ寄田畑 御本帳之通請取渡之證文ニ仕

一 所替所持致居ハ者 直サセ双方共叱リ

〔宋書〕
〔廿二〕〇 銘々持抱田畑潰地ニ致ハ者御仕置之事 〔三九〕

右同
一 銘々持抱田畑之内申立無之 本人五畝村役過料九百文如本仕直可
勝手ニ寄堰并街道ニ致ハ者 申付事尤無止事子細有之分ハ其節

愚案コノ刑重シ年貢モ欠目ナシ 願出ニ寄時宜御沙汰之事
利欲ニ為ニテラス戸ハ叱ニテ可然也

但其身耆人之堰街道ニ無之數人申立之上抱公豆之堰并作場道路
等ニ致置ハ者過料三貫六百文其外本文之通 〔二一ウ〕

〔宋書〕
〔廿三〕 青田ヲ賣渡ハ者御仕置之事 〔四〇〕

右同
一 青田を仕付之保ニ而賣渡ハ者 賣渡ハ錢高半分ツ、双方ハ過料
村役過料耆ハ貳百文如本賣戻
可申付事

愚案不當貧究至極ノ者故右ノ如ク
青田ヲウリ然ルヲ過料ニ其者ニ預
ケハ、不作ナルヘシ外、御ルヘシ

〔宋書〕
〔廿四〕 一抱之田畑分地致讓渡ハ者御仕置之事 〔四一〕

一 一抱之田畑分地いたし他江 賣人買人共十五畝村役過料耆
讓渡ハ者 ハ八百文地面ハ買戻サセ可申事

但一抱之田畑分地之義古来ハ御制禁ニ御座ハ得共何と那く相
緩ミ村役聞届之上勝手次第讓渡ニ相成罷有ハニ付御再檢同様
地面御改後ニ無御座ハハハ迎も難相改奉存ハ間夫迄之内御咎メ
御免被仰付ハ様重而地面御改之後分地仕ハ者ハ本文之通
被仰付候様 〔二一才〕

〔宋書〕
寛政ノ御例附
御関所忍通々者御仕置之事

〔五三〕

一御関所ヲ忍通々者 十五敲
右同

一山越致々者 十八敲所拂

右ケ条御定書ニ関所難通類山越等致々者礫同案内致々者礫同忍通々者重キ追放ノ御座ハ右関所難通類山越等致々者礫ノ御座ハ儀其身罪科等有之ハ又御停止物等持通テ御切手紙願難差出ニ付御関所山越等致々者ニ可有御座ハハ敵科ニ可被仰付義ヲ奉存ハ乍然罪科無之御関所忍通ハカ又ハ山越致々者ハ死罪ニ至ハ程之儀ニ無御座ハ様奉存ハニ付前書之通沙汰之上相定申ハ尤罪科有之者御関所并山越等致々者之義ハ

〔二ウ〕

公儀御定ニ習ハ敵科ニ沙汰仕末々之ケ条ニ差出申ハ

〔宋書〕
御定書安永寛政ノ御例附
〔廿六〕立帰者御仕置之事

〔五四〕

一科有之追放被仰付後

最初御仕置ハ一等重ク可申付事

一御構之地ハ立帰々者

安永ノ御例不適合ニテ町内村所追放ノ者立帰ハハ輕追放ノ者立帰ハハ輕追放ノ者ハ中追放ノ中ノ追放ノ者立帰ハハ惡事有之時ハ斬罪重キ追放ノ者御関所忍通又ハ脇道イタシ立帰ハハ獄門身上柄ノモノ借込ニテ入奔立帰ハハ輕刑追放

但立帰ハ後徒刑ニ當ハ惡事致々者死罪

寛政ノ御例
一惡事有之出奔致其後立帰居々者 本罪ハ一等輕ク可申付事

但本罪輕クハとも山越致立帰ハハ斬罪御関所忍通ハ

鞭三十里追放 〔書ハ〕 御家中又者等欠落立帰主人ヨリ
申出有之ハハ輕罪

〔二オ〕

右ケ条安永ニ重追放ノ被仰付ハ御関所忍通又ハ脇道等致立帰ハハ獄門ノ御座ハ得とも評義之上前条之通相定申ハ

〔宋書〕
御関所タトハ
忍通々者ハ
死罪ノ害

○御用人
御定書附

一右同立帰惡事致々者 本罪ハ二等重ク可申付事

但鞭三十里追放以上之惡事致々者死罪

右ケ条御定書ニ旦追放ニ成御構之地江立帰アハれハ

死罪ノ御座ハ得共斟酌仕前書之通相定申ハ

〔宋書〕
〔廿七〕隠津出并隠荷揚致々者御仕置之事 〔五五〕

△隠津之刑御定書ニハ無御座ハ安永ニハ品物取押過料又ハ

追放ノ御座ハ寛政ニハ品物取押十五敲尤米式百俵已上ハ家財

關所ノ御座ハ然ハ米壹俵差出ハ者も百俵差出ハ者も十五敲

ニ而ハ相當不仕様奉存ハ殊ニ御國表ニ而隨一之御締合ヲ奉存ハ

問左之通被仰付ハ様

〔二ウ〕

寛政ノ御例斟酌

一 隠津出致_レ者米拾俵已下

一同 拾俵已上

一同 五拾俵已上

一同 百俵已上

一同 百五拾俵已上

一同 貳百俵已上

一 隠津出之宿致_レ者

一 五軒組合之者共

〔書△〕「隠津出二百俵已上家屋敷家財欠所与御座_レ得共其仕振ニヨリ田畑家屋敷御取上家財欠所不被仰付_レ而ハ御締合相立不申_レ間曉數ニ不抱家屋敷田畑御取上家財欠所与時

宜御沙汰被仰付_レ様 ○四奉行

但百俵已上隠津出致_レ五軒組合之者共過料拾_レ文尤

村役過料之定凡例ニ有之

〔書△〕「村長戸ノ代過料六百文町役五日戸ノ格別不吟味_レハハ過料増戸_レ増」

△右五軒組合之者過料之儀是迄十五畝之贖六_レ文ツ_レ上納被仰

付罷有_レ得とも本人前書之通御定被仰付_レハ十八畝之贖十_レ文ツ_レ同廿一ハ一五_レ文同廿四ハ拾八_レ文同廿七ハ廿七_レ文同卅

ハ貳拾四_レ文ニ御座_レ右贖五軒組合ニ差出_レセ_レ而ハ過分之過料

ニ付難義之者とも上納難相成却而御取扱ニ相成可申哉与奉存_レ付

間前書同条ニ相定申_レ付

品物取押十五畝

右同十八畝所拂

右同廿一畝三里追放

右同廿四畝五里追放

右同廿七畝七里追放

右同三十畝十里追放家屋敷家財欠所

本人同罪

五軒組合四軒ヨリ過料六_レ文

〔二四〇〕

寛政ノ御例斟酌

一 隠津出米取賦_レ者

寛 一_レハ二百文

追加

一 隠津出相對致_レ船頭

旅人ニ_レハ、隠積之品御取上ケ入津

御差留御領内之者ニ有之_レ節者

本人同様之御仕置船取上ケ可申事

水主之者過料壹_レハ八百文ツ_レ、

隠荷揚之品物取押入津御差留

〔上辺書△〕

寛 一_レハ二百文

△右ケ条寛政ニ相對致_レ問屋轡六ト御座_レ得とも一等等相定申_レ付

△安永ノ御例ニ御停止物隠津出致_レ者重キハ死罪輕キハ鞭刑追

放隠荷揚右ニ準御沙汰之事与御座_レ得とも前書御定之外

死罪等被仰付程之隠津出隠荷揚之義ハ時宜御沙

汰被仰付可然奉存_レ付

〔宋書〕

〔十八〕廻船荷物出賣出買并船荷物押領致_レ者御仕置之事

御定書斟酌 一 船荷物出賣出買致_レ者 賣買ノ品物代錢ニ差積過料

旅人ニ_レハ、賣買之荷物代金取上ケ

〔五八〕

〔二五〇〕

入津御差留

御定書

但荷物代金共三取上ケ問屋附之荷物ニ有之ハ、荷物問屋ニ可相渡事

打荷或ハ破船与偽荷物

船頭

獄門

上乘同罪

押領致し者

水主入墨之上鞭十五

但吟味之上浦證文ハ有之共類船無之差而痛不申ハ致荷

打ハニおゐテハ船頭過料十貫文上乘同三、文水主無構

遭難風致荷打殘荷物を盗ハ船頭与

死罪

馴合湊方相欺キ浦證文等取遣配分取し者

△右ケ條御定書獄門此次之ケ條ニ盜荷物預置し者死罪与御座ハ得共

元来此ケ條ハ船頭殘荷物を私曲為可致頼合ハ処ハ出ハ罪人ニ御座ハ

間船頭ハ本人ニ付重罪ニ御座ハハ其時ハ同類ニ御座ハ間死罪一、等許

可申者ニ御座ハ併湊方を相欺キハ儀不埒之者ニ対死罪ニ仕其外之

同類一、等ツ、輕ク申付ハ方可然様奉存ハ付此度評議之上右之通

相定申ハ

同盜荷物自分土藏ヘ入預

徒壹年半三十敲

置配分取し者

同船頭之者致馴合村中之

三十敲十里追放

者ヘ申勸メ配分取し者

同百姓之内重立致持賦

廿七敲七里追放

世話配分取し者

一同盜荷物配分取ハ百姓

十敲

(一六才)

〔廿九〕盜賊御仕置之事

一都而盜取之品ハ被盜し者在相返可申ハ金錢遣捨ハ、可為損失盜物

取戻ハとも科之無差別

一盜ニ忍入人を殺し者

磔

但同類之者助力不致し者ハ盜賊を以沙汰可致事

一同疵付し者

獄門

但忍入ハニ無之共盜可致与存人ニ疵付し者ハ死罪同類之内助

力不致者ハ盜賊を以て沙汰可致事

△右ケ條寛政ニ磔と御座ハ得とも本文之通ニ而可然奉存ハ

一盜ニ入忍刃物ニ無之外ノ品ニ而人ニ疵付し者 當人斬罪

但同類之者不致助力候ハ、盜賊ヲ以て沙汰可致事

一強盜可致与徒黨致人家ハ押込し者 財物を取ハハ不殘磔

財物を取不申ハハ不殘斬罪

財物を取ハハ不拘多少斬罪

一土藏ヲ破盜致候者

財物を取不申ハハ徒壹年半三十敲

安ニ 土藏屋シリヲ切 寛ニ 土藏ヲ破或ハ盜ニ入次第

盜致し者斬

ニヨリテ入墨三十

但同類ハ一等輕く可申付事

「コ」段動テ不意故ハ盜三人ニ斬付ヘハ實ニ斬トリ然レハ此テ
衆斷ニ當ルナリ前条ノ同類ハ以テ盜賊沙汰ト云ニ反セリ
依テ盜ノ手引致ケモノ斬シテハ、宣事也盜ノ
以テ沙汰ト盜ノ多少ヲ以テ罪科ノ輕重ニ至ルナリ

御定書安永ノ御例酌
一 盜賊ノ手引致ケ者

〔重〕
一 盜罪ノ引ケテハ
ノ重罰等盜
安永ノ手
取モノ斬

本人同罪

御定書斟酌
一片輪者を殺け而所持之品を盜取け者 御二死罪 引廻之上獄門

但盜取け斗ニ而於不殺ハ鞭三十里追放高多けハ、盜賊之刑

二等重く可申付事

御例斟酌
一 追剥致け者

同類共獄門

△右ケ条安永ニハ引廻之上獄門寛政ニハ磔御座け得とも本文之通

ニ而可然奉存け

〔二七才〕

右同
一 追落致け者

御二
追落ノ刑金半両以上雜物
代金ツミ両以上ハ死罪
斬罪
コノケ条往來ノ道路ヲナヤマス至テ
人氣ヲサワカス故重シ

御定書斟酌
一 巧を以て人を打擲致同類之

内方取扱物を称たり取け者

人三疵付けハハ獄門
不得物取けとも疵付けハハ死罪
不得物取扱付不申けハ徒一年半三十敲

但同類ノ者一等輕く可申付事

寛政ノ御例
一 喧嘩等致財物を奪取け者

三十敲十里追放

但取け高多けハ、盜賊ノ罪ニ二等重可申付事同類ハ一等を
輕く可申付事

〔重〕
一 盜罪ト申ハ輕位ノ事ナリ市券中ノ金子等文ハ、盜竊大ナル能テ
〔二七才〕
〔キ〕レ兵衛ノ中ニテ取付輕ト云ハ沙汰シテ事

右同
一 巾着切之類ハ常之盜賊ヲ以テ沙汰可致事

一 盜致け者盜取け高に應じ輕重ノ罪科ニ行ひ可申事

△盜賊ノ刑御定書三重キ盜賊ニ而死罪等ニ相成け分夫々之ケ条

二 出候外輕キ盜致け者ハ敵御座けハ、何程之品盜取け者ハ

敵と申義相分不申け得共御定書三手元ニ有之け品を風与盜
取け類金子十両已上死罪と御座け左け得ハ、公儀ニ而も元

來之処ハ錢高ニ寄刑を加け義与奉存け隨而重キ盜賊ニ而死罪
等ニ被行けケ条之外輕キ盜賊ハ盜取け錢高を以て刑を加

候義可然奉存け尤御定書三重キ盜ニ而も十両已上死罪ニ御座け

間御定書寛政ノ御例斟酌仕百文已上斬罪与相定申け

一 五文已下 五敲

一 一五文已上 十敲

一 一十文已上 十五敲

一 一廿文已上 鞭十八所拂

一 一三十貫文已上 鞭廿一三里追放

一 一四拾文已上 同廿五里追放

一 一五十文已上 同廿七里放

一六十^〆文已上

同三十里追放

一七十^〆文已上

徒半^(マ)鞭三十

一八十^〆文已上

同一年同三十

一九十^〆文已上

同一年半同三十

一百^〆文已上

斬罪

右錢高を以て罪之輕重を定め事尤盜取^レ品錢人ニ而分けても分前之高ニ不拘盜取^レ本高を以て罪を加^レ事同類之者ハ一等を輕く可申付事

(二八〇)

但僉義之節於數家盜取^レ義雖相顯只一家之盜高多を以罪を定め事米穀等ハ時々直段を以錢ニ直し品物ハ直打致サセ錢ニ差積可申事尤一夜ニ五軒以上ニ盜入錢高五拾^〆文已上之品物盜取^レ者ハ斬罪

公ニ家藏ヘ忍入旧惡ニハとも五度已上ノ盜イタシ^レモノ物不取得共引廻

一盜ニ忍入^レても品物盜取不申者ハ

五敵入墨許之

但武士屋敷江忍入^レハ、二等重く可申付事

〔宋書〕
〔世〕難船之節乱妨致^レ者御仕置之事

(六二二)

一難船等之節便ニ乘し乱妨致^レ者

十五敵十里追放

但取^レ物高多^レハ、盜賊之罪ニ二等重く可申付事同類之者ハ本人ノ一等輕く可申付事

〔宋書〕
〔世〕度々盜致^レ者御仕置ノ事

(六三二)

一盜賊入墨式度ニ及又々盜致^レ者

斬罪

△御定書ニ家藏ヘ忍入旧惡ニ得共五ヶ度已上之度數盜致^レ者物不取得^レとも引廻之上死罪家内ヘ忍入或ハ土藏等破^レ者ノ類金高雜物不依多少死罪ヲ申ケ条も御座^レ然ハ五度ニ限り^レ儀ニも無御座^レ開寛政之御例ニ隨ひ常之盜賊ニ而も及三度ハ死罪ヲ相定申^レ付

〔宋書〕
〔世〕盜人ヲ搦捕不訴出者御仕置之事

(六四)

一盜人を召捕雜物取返

村役名主并當人とも

一内證ニ而逃し遣^レ者

支配頭ニ而叱り

但死罪ニ成ヘき盜人を内證ニ而逃し遣^レハ、村役名主當人共過料壹^〆文

(一九〇)

〔宋書〕
〔世〕盜賊之宿致^レ者御仕置之事

(六五)

一追剥強盜之宿致候者

本人同罪

一盜賊之宿致^レ者

本人同罪

但財物を配分不致^レハハ一等輕く可申付事

△右両ヶ条御定書ニ惡黨候者存宿致盜物賣拂遣又ハ質ニ遣

配分取_レ者死罪惡黨者_ハ乍存宿致し又ハ五七日ツ、滞留為致_レ者重追放但惡黨者磔_ニ被行_ハ、宿致者死罪_ヲ御座候安永_ニハ盜賊_ト乍存宿いたし盜物等取扱候者鞭刑追放巧_ニ重キハ斬罪_ト御座候然_ハ御定書_ニも惡黨ノ宿_ト斗御座_ハ而輕_キ盜賊之宿致候者御片付之義相分不申御片付方違_ニ相成不申奉存_ハ間寛政之御例之通本人同罪_ニ而可然奉存_ハ

〔二〇七〕

〔六八八〕

〔采書〕
〔右同〕
〔三〕盜物質_ニ取_レ者并預_レ者又ハ賣買致_レ者御仕置之事

一強盜_并凡_ニ而盜賊之盜物を乍存買候者品もの錢_ニ差積盜賊之刑_ハ輕_ク可申付事乍存預置_レ者又一等輕可申付事

但品物之高多く_ハとも十五敲_ニ而許可申事若不存_ハ、御構無之品ものハ本人江返_可申事

△右ケ条御定書_ニ盜物と乍存世話致し配分ハ不取者敲_〇盜物と乍存預_レ者敲_〇盜物買入墨之上敲_〇乍盜物と存又買致_レ者入墨之上敲但年来此事_ニ加居_レ者死罪_〇盜物と乍存下直

ニ買取_レ者所拂_与御座_ハ安永_ニ盜もの相調_レ者輕重_ニ而戸_ノ或ハ追放_与御座_ハ然_ハ処買取質_ニ取_レも多少御座_ハ間寛政之御

例_ニ隨_ハ其品之多少_ニ寄刑を加候事可然奉存_ハ

〔御定書附酌〕
一盜物と不存證人取之如通例質_ニ取吟味之上物盜之儀不存_ハ〔二〇七〕

決_レハ、證人三元金為償質物ハ取返被盜_レ者へ相渡可申事但證人も御仕置_ニ成金子可差出方無之_ハ、質屋可為損金事尤證人取不申_レ得_ハ質屋可為損失事

〔公ノ但書〕證人無之不念之質トリ_ハ、質ヤ損金其上

〔御定書〕

一盜物と不存品もの買取_レ者其品取返被盜_レ者江相返可申事尤證人を買取取_レハ、證人代金買主方へ可相渡事

但被盜_レ品有處不相知代金盜人所持致_ハ、取上ケ被盜_レ者へ可相渡_ハ尤盜もの買主_ノ取返_レ上代金盜人所持致候とも買主無念_ニハ間右金子没収可致事

〔御定書〕

一盜物と不存買取賣拂_ハ節ハ賣先段々相糺代金を以買戻サセ被盜_レ者へ相返せ盜人_ノ初發買取_レ者損金_ニ可申付事

但賣先不相知_ハ、初發買取_レ者_ノ被盜_レ者へ代金_ニ而為償可申事〔二〇七〕

〔御定書附酌〕
紛失物町觸之節

〔御定書〕
隱置_レ者

品物錢_ニ差積盜賊之刑_ハ一等輕_ク可申付事

△右ケ条御定書_ニ家財取上ケ江戶拂_与御座_ハ得とも是又品物之多少御座_ハ故其多少_ニ隨_ハ刑を加_レ方可然様奉存_ハ

〔采書〕
〔三〕金子遣捨_ハ飛脚御仕置之事

一金子入之書狀請取_中 金高不依多少

〔六八八〕

二而切解遣捨け飛脚

引廻之上 斬罪

〔宋書〕
〔世五〕火附御仕置之事
御定書安永寛政之御例

一火附け者

引廻之上火刑
〔マメ〕〔六九〕
サイ

御定書

但燃立不申けハ、引廻之上斬罪

〔二二〇〕

一火附け者

火罪

〔右同〕
一火附け者

火罪

〔右同〕
一火を付け者年を越於相頭ハ

火罪

〔右同〕
一火附を召捕又ハ訴人三出け者

御褒美人数之不依多少銀三十枚

〔文化元年御定〕
一遺恨を以火を付け旨

三十敲徒貳年

張札致又ハ投文致け者

△右ケ条御定書ニ死罪与御座け得共威之為一通之仕方ニ而火を

付け真意ニ無御座けに付徒刑ニ而可然奉存け

〔宋書〕
〔世六〕牛馬盗人御仕置之事
安永寛政ノ御例附約

〔七〇〕

一牛馬を盗取他領へ忍出け者并

斬罪

〔追加〕
御領内ニ而も賣渡け者

〔三二〇〕

〔追加〕
但御領内ニ而未賣渡け者鞭三十徒一年半

〔安永ノ御例附約〕
一他領之悪者引入盗牛馬之手引致け者

斬罪

但於御領内馬取返けハ、手引致け者三十敲徒一年半

〔右同〕
一盗牛馬乍存買取け者 徒壹年半三十敲

但不存買取けに於無紛ハ御構無之

〔右同〕
一盗牛馬之義賣先相知けハ、本人江相返せ可申事

〔追加〕
一以手段牛馬を他領へ隠致け者 廿四敲五里追放

△右ケ条享和年中右鉢之者有之廿一鞭三里追放被仰付
候類例も御座け間此度沙汰之上書加申け

〔宋書〕
〔世七〕盗杣御仕置之事

〔七二〕

△盗杣之義安永ニ小屋懸等致泊山御留山ニ而盗杣之者斬
罪馬ニ付日帰盗杣背負荷日帰等之盗杣ハ鞭刑追放過

〔二二〇〕
料鞭刑等時宜御沙汰与御座け寛政ニハ杣取之多少を以て

御藏之財物を盗取け律を以て刑を可加事与御座け然ハ

安永之御例ハ大略書寛政之御例ハ明密ニ御座け間寛政之

御例可然奉存け得とも是迄盗杣有之當人相知けハ杣取

之木品代錢ニ差積刑を加け得とも伐木も色々ニ而伐株斗

御座け分も有之積方等しく相成不申け間此度伐株三段ニ

仕分右三段之平均を以て刑を加けハ弁理ニて右鉢積方

之輕重も相當可仕奉存け間已來左之通被仰付け様

一盗杣致け者杣取之株小口を以て寸面を取大ハ式間与致三段

ニ相定代錢ニ差積御藏之財物を盗取け以ケ条刑を可可申事

尤入墨ハ許之

竊利之義伐之代錢差積り權三十里段已上之刑無御座付
得ハ田畑家産シ主財所不被仰付ヘ共仕舞ヨリ欠所不被仰付
ハ御締合立申間數數不均家産數田御取上家財欠所等時宜御沙汰被
仰付ナレバ ○四奉行

但一村申合盜柳有之不殘刑三行ハ難き節ハ贖等差出サセハ
時宜御沙汰之事
權差二寸已下ハ八冊小權直段差渡二寸四寸二口ハ間畢木直差渡
五寸ヨリ七寸迄三口ハ式間丸太直段差渡八寸九寸二口ハ二間五寸角
直段差渡尺五尺一寸二口ハ二間六寸角直段右已上ハ前書積ヲ以テ
材割ノ答但杉ハ權ヨリ一割下ケ
雜木ハ家木ニ相成付分三割下ケ
右ノ通被仰付ナレバ ○四奉行

伐株三段之直段定左之通

一杉檜伐口差渡式寸已上

一同 五寸已上

一同 老尺已上

右直段を以て相究可申事雜木ハ檜三割下ケ直段を

以て積可申事尤木品有之分ハ不殘取上可申事

一村役五軒組合過料定凡例ニ有之

一御留山ニテ柴薪伐取ナ者

過料老文 (二三ウ)

但伐取ナ高多ナハハ錢ニ差積一倍之過料上納可申付事

一御留山ニ無之ナ而も御停止木伐荒ナ者 前条同斷

但伐株ニ而木品無之節ハ雜木伐株積ヲ以て沙汰可致事

一一流木過木伐取ナ者

過木取上ケ過料三貫文

但御極印打入已前過木賣拂ニ於ハ右代錢上納之上御藏

之財物を盜取ナケ条を以て贖過料差出サセ可申事

△右条寛政ニ山師共流木過木伐取ナ者伐出之過木不殘取上

伐出之多少を罪を加ナ御座ナ得とも過木之義山師差圖を以

伐取ナ斗ニも御座有間數杣子共銘々伐取惣高之処ニ至過木ニ

相成義も可有御座在方ニ而も村方申立ニ寄流木伐取被仰付村

中之者銘々伐取ナ惣高員數之處ニ而過木ニ可相成殊ニ流木之儀

ハ伐取相濟山中御極印打入之節過木相顯右過木不殘御

取上ケニ相成ナ間過料一通ニ而可然奉存ナ

一杉檜末木盜取ナ者 御定直段半分ニ致刑を加可申事

追加 山下村杉檜老本之代小杉百本ツ、

一山中伐荒有之當人相知不申節 植付雜木老本之代小杉五十本ツ、

右同 植付可申事

但植付木之儀植付之多少ニ寄三ヶ年或ハ四ヶ年五ヶ年右年

迄ノ内年限相定メ植付可申事尤被仰付之年限ニ植付不

申節ハ伐荒相當之贖を以て過料上納可申事

△右ヶ条寛政ニ山中伐荒有之科人相知連不申節ハ伐株之多少を

以て山下村過料可申付御座ナ得共其後伺之通杉檜ハ老本

之代小杉百本雜木ハ五十本ツ、植付過料被仰付罷有ナ処文化

元子ノ年被仰付ニハ植付木ニテハ御締ニ相成不申ナ付錢過

料之義御沙汰被仰付得とも左ナハ山下及潰ナ村等も可有

御座殊ニ植付木盛木ニ相成トヘハ往々之御益ニ相成ト付植付木
是迄之通被仰付右年限ニ植付不申トヘハ過料上納之義四奉行
沙汰之通被仰付罷有申ト

寛政ノ御例

一 無極印材木賣買致ト者

本品取上ケ之上盗物乍存賣買致
候ケ条を以刑を加可申事

(朱書)

一 田畑之穀物を盗取ト者御仕置之事

(七四)

安永寛政ノ御例斟酌

一 田畑之穀物を盗取ト者

入墨之上盗賊之刑ニ三等重ク
可申付事

追加

一 野菜を恣ニ盗取ト者

盗品代錢ニ差積盗賊を以刑ヲ加可申事

但入墨許之

(二五才)

寛政ノ御例

一 柴草木石之類人功を以伐取

右同断罪を定ト事

或積置トを恣ニ取ト者

(朱書)

一 人を勾引ト者御仕置之事

(七五)

御定書斟酌

一 人ヲ勾引他領ヘ賣出ト者 斬罪

但未賣出ハ鞭三十里放追

一同御領内ヘ賣渡ト者

徒一年半三十敲

但未賣出ハ廿七敲七里追放

右同
一 勾引ト者与乍存買受ト者 賣渡ト者ニ等輕く可申付事

但於不存ハ御構無之

御定書斟酌
一 勾引ト者と馴合賣遣し分前取ト者 本人之刑ニ等輕く可申付事

(朱書) (二五才)

一 謀書謀判致ト者御仕置之事

(七八)

安永寛政ノ御例斟酌

一 似せ印形似せ手紙或古手形を 入墨之上錢高を以て盗賊ニ等

取捨公私之物を取ト者 重く可申付事

一 物取ニ無之申訳之為斗ニ役所向之手形を

十八敲所拂

謀書致有合之印形押ト類

△寛政ニハ盗賊ニ準し一等を減可申事入墨許之与御座ト得共此

ケ条之罪ハ偽り品之罪斗而利欲之心ニ無御座ト付御定書ニ随申ト

右同

一同役同志又ハ町人同志右躰之申訳之

十二敲

一 為斗ニ役所向之手形ニ無之共謀書致ト者

(七七)

(朱書)

一 巧事語り事重キ祢たり事致ト者御仕置之事

(七五)

御定書斟酌

一 語り品對上ト物 語り取ト錢五拾貫目已上

斬罪

但右已下ハ盗賊之罪ニ五等重く可申付事

(二六才)

右同
一 巧なる儀を申掛五度已上

金高雜物多少ニ寄らす

金子を語取ト者

斬罪

但四度迄ハ雜物代錢之多少を以盜賊之刑を加可申事
右同
 一惣而催促ニ逢或ハ預ケ物等
本ノマ
 未ル人江申懸致疵付又ハ打擲致ハ者
 三十敲十里追放

但刃物ニ而疵付ハハ死罪
右同
 一重キ役人之家来与偽語り取ハ者
 鞭十五

但取ハ物高多き節ハ盜賊之刑を以て二等重く可申付事

〔四十一〕 役人似セハ者御仕置之事
〔宋書〕
 寬政ノ御例
 〔七九〕

一在々通り役人を似セ往來之

三十敲十里追放
〔二六〇〕

人馬賄等為差出ハ者

但賄并人馬不為差出ハ共帶刀之上役人與偽村方扱ニ相成ハ者

ハ廿四敲五里追放
ヤク

△右ケ条安永ニ在々通役人を真似馬觸等取拵往來之人馬賄

等為差出ハ者ハ斬罪ト御座ハ得とも寬政之御例之通ニ而可然奉存ハ

〔四十二〕 帶刀致ハ百姓并町人御仕置之事
〔宋書〕
 御定書附酌
 〔七九〕

一自分と帶刀致罷有ハ百姓町人

刀脇差取上ケ叱リ

〔四十二〕 賈秤賈舛を拵ハ者御仕置之事
〔宋書〕
 右同
 〔八一〕

一賈秤拵ハ者

獄門

但懸目ニ於テ相違無之ハ廿四敲五里追放

一賈舛拵ハ者
右同
 獄門

但入目於無違ハ廿四敲五里追放
〔二七〇〕

△右ケ条寬政ニ私ニ舛秤等を造リ并通用舛を増減致奸曲ハ者

鞭六ト御座ハ然とも御定書ニ本文之通御座ハ而舛秤賈造ハ

義ハ御領内ニ限不申天下一統之御法ニ付御定書之通相定

申ハ尤右之内賈舛之義在方商賣物ニ多相用ハ得共一舛

賈秤と申ハ燒印等造リ似セ拵穀物等奸曲仕ハ右之義ニ可

有御座奉存ハ在方扱之賣物ニ相用ハ無極印舛ハ唯入物之大

小を以て直段高下相定ハ迄ニ而賈舛与申ニ無御座ハ間右等

之分ハ是迄之通ニ而可然奉存ハ

〔四十三〕 似セ葉種商賣致ハ者御仕置之事
〔宋書〕
 右同
 〔八一〕

一似セ葉種商賣致ハ者 死罪
〔二七〇〕

〔四十四〕 賄賂を請不筋之捌扱致ハ者御仕置之事
〔宋書〕
 寬政之御例附酌
 〔八一〕

村役町役之類賄賂を受 錢高五ハ文已下六敲五ハ文已上十

不筋之捌扱致ハ者 敲五ハ文毎ニ等ツ、重く可申付事

百貫文已上死罪之代三十敲徒二年

ニ而許可申事

但何人[△]受^レけ而も惣錢押合^レけ高を以て罪を定事若其事重^クけハ、臆偏頗を以人之罪を或ハ重し或ハ輕し^レケ条を以て刑を可申事

〔宋書〕

〔四十五〕 賄賂を受^レけ斗^ニ而不筋之捌扱無之者御仕置之事

一 村役町役之類類を受賄賂^ヲ取^レけ斗^ニ而不筋ノ捌扱不致者

拾^ル文已下^ニ鞭^一拾^ル文已上^ニ五敲^十ル

文每^ニ一等重可申付事尤百^廿ル文已上^ニ徒老^年半^廿敲^ニ而許可申事

但何人[△]受^レけ而も惣錢押合^レけ之半分^ニ致し罪を定^レけ事尤老^人△受^レけ分^ハ半分不致事

〔二八三〕

△御定書ニ公事諸願其外請負事等^ニ而賄賂差出^レ者□取持致^レけ者但賄賂請^レけ者其品相返^於申出^ハ賄賂差出^レ者并

取持致^レけ者とも村役人^ニ候ハ、役義取上^ケ百姓^ニ候ハ、過料可申付事と御座^レけ得共夫^ニ而ハ輕^ク奉存^レけ間本文之通相定申^レけ

〔宋書〕
〔四十六〕 不筋之財物を取^レけ者御仕置之事

〔八五〕

一 打擲^ニ逢^レけ者療治代之外^ニ

右同

十^ル文已下^ハ戸^ノ廿^ル文已上^ハ戸^ノ卅^ル文已上^ハ五敲^十ル文每^ニ

錢をゆすり取^レけ之類

〔マメ〕

度重^ク可申付尤百^貳ル文已上^ニ卅敲^十里追放^ニ而許可申事

但惣錢半分^ニ致し罪を加^レけ事前条同様之事尤與^レけ者ハ

五等輕^ク可申付事

〔二八ウ〕

町役村役^ニ而諸年貢上納錢割合物定高之内

右同

一 自分依怙臆偏之者[△]少^ク取立^外者[△]

右同

多取立埋合^ニ致^レけ類

但書前条同斷

△右ケ条寛政ニ座贓之刑^ニ而差而賴合^レけ事も無之通例只財^ヲ

受^レけ類ハ座贓之罪^ニ可行事^ヲ御座^レけ得共右躰之類為差御取扱^ニ相成^レけ儀も無御座^レけ間此度評義之上右之通相定申^レけ

〔宋書〕

〔四十七〕 拾^レ物致し不訴出者御仕置之事

〔八九〕

一 拾物致し不訴出義於頭^ハ

拾物取上過料^老貳^百文

〔下ケ札〕

〔御定書〕〇拾物取^ノ事

拾物ノ義訴出^レけ三日晒主出^レけハ金子

ハ落主ト拾^レけ者ハ半分ツ、為取可申^レけ反物

ノルイニ^レけハ、不殘主^ニ相返シ拾^レけ者ハ

落^レけ者ヨリ相應^ノ札為仕可申事

落^レけ者ノ注不相知^レけハ、六ヶ月見

合イヨ主無^レけハ、拾^レ、者ハ不殘取

也可申事

〔四十八〕捨子之義ニ付御仕置之事

〔朱書〕
御定書
一 金子を添子を貰其子を捨ハ者

引廻之上獄門

但切殺ハ殺ニ於てハ引廻之上磔

〔二八才〕

一 捨子有之を内證ニ而隣町

當人所拂五軒組合過料

等江捨ハ義於頭者

老ハ八百文名主三ハ六百文

但吟味之上名主五軒組合不存義於無紛ハ無構

〔朱書〕
〔四十九〕博奕御仕置之事

〔二二八〕

一 博奕打候者

過料三ハ六百文

但其場之金錢ハ没収可致事尤其場ニ居合申ハ者之

外同類有之共一々僉義ニ不及事

△御定書ニ家財家屋敷家藏差上程之過料家藏無之者

ハ五ハ文或三ハ文過料与御座ハ安永ニ中之追放与御座ハ

寛政ニ鞭三与御座ハ得とも過料錢ニ仕ハハ、御締ニ相成可申ハ

間御定書ニ随ハ右之通相定申ハ

〔朱書〕
安永寛政ノ御例
一 同宿致ハ者

本人同罪

〔二九ウ〕

右ケ条御定書ニ博奕打筒取并宿遠嶋与御座ハ然ハ御

定書之博奕打筒取并宿致ハ者ハ大博奕故格別嚴重

被仰付ハ義与奉存ハ安永寛政之御例之通本人同罪ニ而可

然奉存ハ

寛政ノ御例
一同五軒組合之者

過料三ハ六百文

右ケ条御定書ニ身上ニ應し過料与御座ハ得共寛政之御

例之通本人相當之過料ニ而可然奉存ハ

〔朱書〕
前々ノ御例斟酌
一同村役町役

村役過料町役戸ハ之義凡例ニ有之

御定書寛政ノ御例
一 輕斗賭之宝引讀かるた打ハ者

戸ハ三十日

一同宿致ハ者

過料老ハ五百文

一同村役町役并五軒組合之者

叱り

〔三〇才〕

一 博奕再犯之者

一倍之過料

但再犯已上ニ至其処難差置者ハ時宜御沙汰之事

〔朱書〕
〔五十〕無宿者御片付之事

〔一三九〕

御定書斟酌
一 無宿者有之節可相渡所縁無之者

引受人呼出可相渡

但親元親類無ハ而も在町九浦出生と申義慥ニ而惡事無之

候出生町出生村江相渡可申事尤村方ニ而難引取子細有之

分ハ乞食手江下ケハ様

〔朱書〕
前々ノ御例
一 他領出生無宿者

手寄之御関口江送返可申事

〔朱書〕
〔五十一〕御裁許不受者御仕置之事

〔一四〇〕

御定書斟酌
一 御裁許不受者

十八敲所拂

一同裁許相済ハ義を内證ニ而破ハ者

右同断

〔三〇才〕

〔一四一〕

〔宋書〕
「五十二」 不縁之妻を理不尽ニ奪取け者御仕置之事

右同
簪養子不孝不埒有之差異け已後外之養子致 當人徒一年半

娘江嫁合け節先夫催荷擔人娘を奪取け者 荷擔人所拂

〔宋書〕
「五十三」 變死之者内證ニ而葬け寺院御仕置之事 〔一四二〕

右同
一 變死之者を内證ニ而葬け寺院 五十日禁足

〔宋書〕
「五十四」 倒死并手負病人捨物等有之を不訴出者御仕置之事 〔一四三〕

右同
倒死并捨物等有之を 當人并地主家主共過料ニル文

〔宋書〕
「五十五」 倒死并捨物等有之を 五軒組合同卷ル文

押隠於不訴出ハ 町役村役同式ル文

但地主家主五軒組合於不存ハ無構在方同斷 〔三二五〕

右同
一 變死并手負け者を隠置不訴出

前条同斷

一 此外病人等隣町江於送遣ハ

〔九一〕

〔宋書〕
「五十五」上 以宿意主人或主人之親族古主を殺け者又ハ為手負け者御仕置之事

御定書安永寛政ノ御例
一 主殺 一日引廻二日肆鋸引之上 磔

御定書安永ノ御例
一 主人ニ為手負け者

肆ノ上磔

△右ヶ条安永之御例ニ肆之上鋸引立札ニ不及磔与御座け寛政ニハ

肆不申御定書安永之通ニ御座け

一同切懸打かゝりけ者并打擲致け者

獄門

△右ヶ条御定書ニハ死罪寛政ニハ弑逆之事行けハ磔打擲致けハ獄門

与御座け然處主人ニ疵付けハ肆之上磔古主切かゝり打かゝりけ者

死罪ニ付右同様斟酌仕け得ハ此刑獄門ニ而可然奉存け 〔三二五〕

追加
一人を頼主人を殺け者 自身主人を殺け与同罪

安永ノ御例
一同被頼け者 獄門

御定書安永寛政ノ御例
一 主殺之者自滅ニ於て而ハ 凡例ニ出之

右同
一 主殺之者之倅 但十五歳已下ニハ、追放之義申渡身寄之者共ハ預置十五才ニ相成

候而追放可致事

△公儀御書付ニハ主殺親殺科人之子ハ伺之上御仕置可申付け親

類ハ構無之け得共所ハ預置惡事之企不存ニ決けハ、可差許候

此外火罪磔与に相成け者倅共構無之事与御座け安永ニハ主

殺親殺之者之子男子十五歳已下ハ鞭刑追放被仰渡身寄

江御預ケ十五歳ニ相成重キ鞭刑追放与御座け寛政ニハ主殺親殺之

妻子遠追放家屋敷家財關所但別居之者ハ御用捨之事与

御座け然處御定書之内御仕置ニ成候者之倅五家願出けハ

前書ニ申上け御書付之主殺親殺之子ハ伺之上御仕置可申付

事申ケケ条引合仕得ハ主殺親殺科人之子之内忤者人

御仕置被仰付候事奉存付間右之趣ニ随ヒ申付

安永寛政ノ御例

一主人を怪我ニ而殺シ者

右同斟酌

一同怪我ニ而疵付シ者

御定書

一主人之親類を殺シ者

追加

但親類トハ服忌有之者并重キ縁類ト時宜之御沙汰可有之事

右同斟酌

一主人之親類手負セ候者

右同

一同切カヽリ打カヽリシ者

御定書

之上ニ等輕ク相定申付

御定書

一古主を殺シ者

右同斟酌

△右ケ条安永ニハ當主人を殺シ同罪ニ御座付寛政ニハ肆不申付

右同斟酌

此ケ条御定書之通ニ御座付

一同為手負シ者

右同斟酌

△右ケ条安永ニ本主人を殺害いたシ付同罪ニ御座付御定書ニ

引廻之上磔ニ御座付得とも評議之上獄門ニ相定申付

右同

一同切カヽリ打カヽリシ者

右同

兼而巧シ事ニ有之付ハ、死罪

當座之事ニ有之付ハ、徒二年三十敲

△右ケ条御定書ニハ死罪ニ御座付得共前書同様評議之上而様ニ相定申付

(三才)

(九二)

「五十五下」以宿意親或親族を殺シ者并手負セシ者御仕置之事

安永寛政ノ御例

一親殺

右同斟酌

一日引廻二日肆鋸引之上磔

△右ケ条御定書ニ引廻之上磔ニ御座付得共安永寛政之御例共主

殺之御例

一同様ニ御座付間右之通相定申付

一親を為手負シ者

御定安永ノ御例斟酌

一親を為手負シ者

御定安永ノ御例斟酌

一同切カヽリ打カヽリシ者并打擲致シ者

御定寛ノ御例斟酌

△右ケ条安永ニハ無御座付御定書ニハ死罪寛政ニハ磔ニ御座付得共

評議之上獄門ニ相定申付

御定安永ノ御例斟酌

一親殺之者之忤

御定安永ノ御例斟酌

但十五才已下ニ付ハ、追放之義申渡身寄之者ハ預置十五才ニ相成

追放可為致事

評議之上獄門ニ相定申付

△右親殺之者之忤御仕置之義委細主殺之者之忤御片

付方之品ニ而申上付通ニ御座付

御定安永ノ御例

一親殺之者自滅ニ放テハ

御定安永ノ御例

一親を怪我ニ而殺シ者

御定安永ノ御例

但怪我之證據慥ニ而殺シ者之親或兄弟ノ助命之願於

凡例出之

斬罪

申出ハ時宜御沙汰之事

假令怪我ニ殺ハ共斬罪ノ筈
随テ但書削ケ様○御用人

△怪我ニテ親を殺ハ者之義与得沙汰仕ハ処其者常之行跡不
宜ハ格別孝心之者ニモ右躰怪我有之間敷義ニモ無御座ハ様奉存ハ
所右科ニ寄其子斬罪ニ相成ハ義ハ被殺ハ者ノ本意ニモ有御座間
敷奉存ハ間右之通定申ハ
(三四才)

一親を怪我ニ而疵付候者
安永ノ御例酌
安永ノ御例
寛政ノ御例 徒壹年半三十敲

但親之願ニ寄御用捨之事

一子并孫を殺ハ者ハ
徒壹年半三十敲

但偽を致錢を添貰ハ養子を殺ハ、死罪

△右ケ条御差出ニ孫を殺ハ刑無御座ハ安永ニ子を殺ハ者不及解死人
時宜御沙汰之事与御座ハ尚又御定書ニ実子養子短慮ニ而風与殺
ハ、遠鳴親方之者利徳を以て殺ハ、死罪与御座ハ得共実子ニ
御座ハ得ハ子之為ニ親を下手人ニ仕ハ義ハ相當不申義ニ奉存ハ間ニ
ケ条ニ相定申ハ

(宋書)
〔五十六〕 離別之妻江疵付ハ者御仕置之事
(一〇二)
御定書斟酌
(三四才)

一離別之妻江疵付ハ者
乞食手ニ下ケハ様

(宋書)
〔五十七〕 弓鉄炮ニ而人を殺ハ者御仕置之事
(一〇三)

御定書寛政ノ御例
御定書
一弓鉄炮を放誤ニテ人を殺ハ者 怪我ニテ人を殺ハケ条と同断
一定たる矢場鉄炮場ニ而外ハ不慮ニ人参カハ若矢玉ニ當リたとヘ
其人死ハとも不及咎三十日遠慮可申付事

(宋書)
〔五十八〕 辻切致ハ者御仕置之事
御定書斟酌
(一〇六)
辻切致ハ者 引廻之上獄門

△御定書ニ引廻之上死罪与御座ハ得共重罪ニ付右之通相定申ハ

(宋書)
〔五十九〕 僧侶人を殺ハ節并疵付ハ節御仕置之事
御定書
一僧侶人を殺疵付候科俗人ニ替無之
(一〇七)

但寺持ハ一等重ク可申付事
(三五才)

(宋書)
〔六十〕 一邪曲を以て輕親類縁者人を殺ハ義内濟ニ而取扱事済ハ者過
御定書
料二貫文但村役町役五軒組合過料右同断
(一〇八)

△御定書ニ邪曲を以て親類縁者人を殺ハを内濟ニ而取捌
事済ハ者過料与御座ハ得共親類之分ハ互ニ相隠ハ人情ニ御
座ハ處重キ親類之間ニ而相隠ハ節御咎被仰付ハ而人情ニ相
反候ニ付寛政ニモ重キ親類之分惡事有之ハ而相隠ハ而も御咎

無之ケ条も出ヰ義ニ付此度沙汰之上此處輕親類縁者と相定申

(宋書)
〔六十二〕
御定書

一家焼失之節親焼ヰを捨置外江逃出ヰ者

死罪
〔一〇八〕

但祖父母伯叔母兄弟姉を焼死致させヰ於てハ二十畝五里追放

△御定書ニ酒狂人御仕置并乱氣ニ而人を殺ヰ者之ケ条ニ酒狂ニ而

人を殺或ハ疵付ヘハ本性ニテ致ヰ者と御刑法同様尤被殺

侯主人親類等下手人御免之願申出ヰとも取上申間敷事(三五ウ)

御座ヰ乱氣ニ而人を殺ヰ者ハ下手人然共亂心之證據儲ニ

有之上被殺ヰ者之主人并親類等下手人御免之願申出ニ

於てハ遂詮義可相成事但主殺親殺たりとも乱氣ニ於無

紛ハ死罪与御座ヰ左ヰ得ハ主殺親殺ニ無之ヰ而も乱心ニテ

人を殺ヰ分も活命ニ相成ヰ義文面睨与相分不申ヰ殊ニ酒狂

乱心之義ハ程考量も難相定且又虚実も分明相分不申

義ニ付人殺之者如何様之取巧ニ而酒狂乱心与偽ヰ義も可有

御座哉も難斗奉存ヰ縱令被殺ヰ者之主人親類ニ下手

人御免之願申出ヰ共義ニ於て活命難被仰付筋之者ニ奉

存ヰ間平氣ニ而人を殺ヰ同罪ニ而可然奉存ヰ安永之御例も

平氣ニ而殺候と同罪与御座ヰ寛政ニハ乱心者ハ癡疾同(三六ウ)

様与御座ヰ得共酒狂之ケ条無御座義ハ人を殺又ハ疵付

侯類酒狂といへとも本罪人々輕く仕付筋無御座ヰ故ニ可有御座
哉与奉存ヰ随而酒狂之ケ条相立不申ヰ乱心者之義も片輪者
之ケ条ニ差出申

(宋書)
〔六十二〕訴訟御仕置之事

〔一一七〕

一諸願申出ヰ者一通吟味之上難成願ハ其趣申聞せ重而願出ヰ

ハ、咎可申付旨急与申付其上願出ヰハ、十五日戸ノ可申付事

但支配頭江願出無取上義ニ付戸ノ申付ヰ処達而箱訴并

御役人江訴訟ニ罷出ヰハ、奉行ニ而遂吟味彌於難立願ハ

卅日戸ノ可申付事尤願難相立筋を支配頭ニ而取押(三六ウ)

置或ハ支配頭ニ而非道之取扱有之訴出ヰ類ハ可為格別事

一親子兄弟其外之親類ニ而も御咎御免之願ハ再應申出ヰとも

不及咎事

一惣而願之義筋違ニ申出ヰハ其筋之支配頭江願出ヰ様ニ申付ヰ上

再應申出ヰハ、其筋江遂對談難立願ニ而無取上部ハ其筋

之支配頭ニ而相應之咎可申付事

但難立願奉行支配頭ニ而無取上旨申渡ヰ処同役江右之趣ニ

於申出ハ寺院ハ押込町人百姓ハ戸ノ又ハ過料可申付事

一親類縁者之由ニ而訴訟差出ヰ節當人難願出訳も無ヰハ、當人

江為願可申旨申渡取上申間敷事

- 右同斟酌
一難立願度々箱訴致御免被
弘前住居之者ハ 弘前拂
仰付々処又々右之儀訴狀入々者 在方九浦之者 弘前御構
寛政ノ御例
一無名之訴狀投文致々者 十八敲所拂
但訴訟之趣取上沙汰致申間敷事
- 〔宋書〕
〔マ、以下同〕
〔六十三〕 蜜通御仕置之事 (一一三三)
右同斟酌
一主人之娘と蜜通致々者 男ハ廿四敲五里追放
御定書
一同蜜通之手引致々者 女ハ叱之上親元へ相渡
右同
一養母養娘并姫と蜜通致々者 男女共獄門
右同
一姉妹伯母姪と蜜通致々者 男女共乞食手江下ケ侯様
寛政ノ御例
一夫無之女と致不義々者 男女共十敲
△右ヶ条御定書ニ夫無之女と蜜通致誘引致々者ハ女ハ親元江返
男ハ手鎖と御座々テ外ニ夫無之女致不義々刑無座々間寛政之
通ニテ可然奉存々 (一一三七ウ)
- 御定書
一縁談極々娘と致不義々男并娘共切殺々親 見届ヶ段於無粉ハ
右同斟酌
一縁談極々娘と致不義々男 無拂
但女ハ髪を剃親元へ相渡 十八敲所拂
右同
一夫有之女得心無之ニ押而不義致々者 獄門 斷罪ニテ可然方

- 但大勢ニテ不義致々ハ、頭取獄門同類三十敲十里追放
御定寛ノ御例斟酌
一夫無之女へ得心無之ニ押而不義致々者 三十敲十里追放
右同
一幼女江不義致怪我致サセ々者 徒一年半三十敲
△右ヶ条御定書ニ遠嶋寛政ニ鞭三十ト御座々
御定書斟酌
夫有之女江艶書度々取替々得共 男女ハ五里追放不及敲
一蜜會不致義於無紛ハ
右同
一離別狀を不遣後妻を呼々者 所拂 (一一三八ウ)
但利欲之筋を以之義ニ々ハ、家財取上之上町拂組拂
右同
一離別狀を不取他へ嫁々者 髪を剃親元へ返
但右之取持致々者過料壹貫五百文
一離別狀無之女他江縁付々親元 過料三貫文
右同
〔宋書〕
〔六十四〕 御留場ニテ鳥殺生致々者御仕置之事 (一一三三)
御定書斟酌
一御留場ニテ鳥殺生致々者 過料壹貫八百文 村役戸々五日
- 〔宋書〕
〔六十五〕 於御停止場鉄炮打々者御仕置之事 (一一三三)
右同
一於御停止場鉄炮打候者 五敲
〔宋書〕
〔六十六〕 徒刑之者再犯御仕置之事 (一一三七ウ)
一徒刑之者死罪上之惡事致ニ於々ハ 死罪 (一一三八ウ)

追加
一同徒刑を犯す者 於其場三十敲徒之年限を増苦使為致す事

〔六十七〕
〔宋書〕
御定書
御仕置仕形之事 (一四五)

一 鋸引 一日引廻兩之肩江刀目を入竹鋸江血を付側ニ立寄ニ日

一 磔 肆挽可申と申者有之時為挽候事

一 磔 取上御仕置場ニ於テ磔可申事尤科書捨札建之

三日之内乞食番ニ附置 但科ニヨリ引廻又不及引廻

〔上辺書〕
〔御例ナシ〕
懐胎ノ女磔ニ相當ハ、
磔不被行獄門ニ可致

一 獄門 於取上御仕置場獄門ニ懸而引廻捨札番人右同断

一 火刑 右同断

但物取ニ無之火附不及捨札火を付居村居町引廻ノ上火
取上御仕置場ニ於テ斬 罪可申付

一 斬罪 於窄前首を刎死骸取捨 附下手人同断之事

一 死罪 肆場所之義追テ伺出ヲ以可申上テ○御用懸 (三九才)

一 肆 取上ケ御仕置場ニ於テ三十敲被行銅鉛山江差遣年

一 徒刑 限之苦使為致す事尤年限之通苦使相濟ハ旨銅鉛

山懸役ヲ申出ハ處ニ而伺之上下山可申付事

但其者ニ寄下山之節弘前徘徊并居村居町大場等徘徊御構可被仰付者ハ苦使相濟ハ旨断申出ハ節右之趣

徊御構可被仰付者ハ苦使相濟ハ旨断申出ハ節右之趣

右同
一 追放 懸役ニテ申渡之上下山被仰付ハ義其度ニ相伺可申事
三里ヨリ十里迄

追放ノ義是
迄御構場所ノ
通被仰付ハ様
〇御用人
金木 御所河原 但平井噴 油川 浪岡 藤崎 (三九才)

但入墨之跡愈候而出卒
御定書并前々ノ御例
一二重御仕置

一 追放 十里追放御構之大場

九浦 飯詰 板柳 木造 浅虫 黒石

但在九浦之者追放ハ勿論所拂之者共弘前御構可被仰付事

一 弘前拂 弘前惣町拂

一 所拂 在方ハ居村拂町ハ居町拂

一 組拂 其沓組御構

一 追院 住居寺ヘ不罷帰申渡ハ所ニ直ニ構遣

一 退院 住居之寺を可退旨申渡之

一 宗構 其宗旨を構

一 一派構 其一派を構同宗ニテ毛外之派ニ成候ヘハ無構

一 敲 五敲ヨリ三十敲迄

一 過料 五百ヨリ三十日迄

一 過料 六百文ヨリ四十二貫文迄

一 入墨 但盜仙ノ過料者伐木之高ニ應シ過料可申付事

一 入墨 於牢屋

一 入墨 但入墨之跡愈候而出卒

御定書并前々ノ御例
一二重御仕置

(四〇才)

一 敵之上 所拂 同 徒刑 役義取上 過料
二 同 追放 過料之上 戸^五

御定書斟酌

一 盲人御仕置

右同

一 座當御仕置

右同

一 乞食手下

右同

一 乞食御仕置

座當へ科之次第申聞座當之法可申付旨申渡
乞食頭へ相渡
乞食頭へ相渡仕置可致旨申渡

(四〇六)

六十八

〔貼紙〕

〔人相書ヲ以御郡内御尋ニ可成者ノ事〇御定書并前々之御例斟酌ニ

(二一七)

〇上へ對シ重キ謀計〇上ノ御道具盜トリ者〇人殺〇但人殺ニ紛シキ出

奔者〇御灸義出奔ノ者〇窄破〇追加〇人ヲ勾引ノ者〇馬盜

御定書ニ主殺〇親殺〇関所破〇公義へ對シテノ謀計〇

同人相書ヲ以テ御尋ニナリノ者存テ隠ヲキ召使等ニ致ノ者獄門

乍存請ニ立ノ者獄門〇不存乍主人請人氏過料

六十九 重科人死骸塩詰ノ

御定書寛政安永ノ御例斟酌

〇上へ對シ重キ謀計〇主殺〇親殺〇右ノ分死カイ塩詰ノ

上御仕置可申付ノ外ハ塩詰不及事〇安永律親殺自滅ニ

(二一八)

於テハ死カイシホ潰ノ上磔〇安永寛政律共上へ對シ重キ
謀計ノケ条ナシ

七十

〔貼紙〕

〔拷問可申付者ノ〕

御定書斟酌ニ

人殺〇火附〇盜賊〇謀書謀判〇但御

定書ニハ関所破入

右ノ分惡事致ノ證據慥ニハハ不致

白狀者并同ルイノ内白狀致、ハハ當

人白狀不致者ノ

〇灸義ノ内不決外ニ惡事分明ニ相知

レ其科ニテ死罪ニ可被行者ノ事

〇右ノ外拷問申付可然品モ有之ハ

ハ、評議ノ上可申付事

〇黨ヲ組法ヲ犯シ頭取灸義等ニ相成ノ節

白狀不致ルイタトハハ後ハ對決ニ成リ

言語セマリ逃辭窮ノ者ノ類

〔裏表紙 四一才〕

(二一六)

この『御刑法帳』は、弘前市立弘前図書館所蔵の岩見文庫に収められている本の一冊である（G四〇一一）。同館の『目録』によれば、

御刑法帳 GK三二二・五一二四〇

写 一冊 半紙

註：文化の刑律の抄かと記す（横書・洋数字）⁽⁴⁴⁾。

本書は、縦二三・六、横一七・〇センチメートルで、袋綴の表紙一丁と墨付四十三丁から成り、右端をこよりで上下二カ所綴じつけている。

オモテ表紙は本文と同紙で、左端に墨で「御刑法帳」としるす。右肩にラベルが二枚貼りつけられている。一枚は「岩見文庫／五九裁判書／一八（郷）」と記し、他の一枚は横書き・洋数字）。この表紙の裏には、朱書で「此書ヶ条省略有之、其段ハ寛政律に書入置候間、見者参合して可論」と記す。

目録二丁、本文は墨付四十一丁である。

目録第一丁表の右下隅に、朱長方印「**宮館蔵**」が捺されている。目録には朱書で一連番号および当初書き漏した表題六条が追加されている。目録に見える六十八から七

十までは、本文では末尾の張紙に記されている。したがって本文がしたためられた後に条文番号が付されて、目録が作成され、さらに点検で発見された番号漏れの条文に追加番号が付され、目録に補記されたのであろう。

最後に、目録で墨書番号の六十八から七十までは、本文末尾の張紙にあり、目録には番号・表題ともに記された。本文は、文化律の内「悪党者訴人之事」から末尾の「御仕置仕形之事」までを収める。朱書は各表題に付された一連番号と〇、一部の連結記号「（」のみである。細字による書入れが随所にめだつ。四〇丁裏の六七条までが本来の体裁で記されている。そして、末尾のウラ表紙を兼ねた本文四一丁表に貼られた上下二枚の紙に、細字で六十八・六十九と七十が補われている。全文が同筆のようである。

念のために、これまで用いてきた一連番号で、本書に収められている条文の対応関係を示しておく。

本書 一〇十〇九、四二〇四六、四九〇五一、

二二

十一〇廿〇二二、二九〇三二、一八・一九、

三三〇三七

廿一、三十…三八、四一、五三、五五、
 五八・五九、六二
 三十一、四十…六四、六六、六八、七二、
 七四、七七
 四十一、五十…七八・七九、八一、八五、八九、
 一二七・一二八、一三九
 五十一、六十…一四〇、一四三、九一・九二、
 一〇二・一〇三、一〇六・
 一〇七・(一〇八)
 六十一、七十…(一〇八)、一一七、一二三、
 一三二・一三三、一三七、
 一四五、二七・二八・二六
 となる。編集過程での細グループが見分けられるが、本書がいかなる段階のものかは今後の検討課題としたい。
 上の作業で検出できない条文は、以下の通りである。
 一、八、一〇、一七、二〇、二三、二五、三一、四七、
 四八、五一、五六・五七、六〇・六一、六三、六七、
 七三、八〇、八六、八八、九〇、九三、一〇一、
 一〇四・一〇五、一〇九、一一六、一一八、一二二、
 一二四、一二六、一二九、一三一、一三四、一三六、

一三八、一四四の七一条である。寛政律に対応する条文が多いが、必ずしも正確に対応するとはいえない。⁽⁴⁵⁾
 また表紙ウラの記載にみえる本書に直接関わる『寛政律』については、すでに紹介した『寛政律』(その四)がこれに当たる。⁽⁴⁶⁾ 同書には、やはり「宮館蔵」印が捺されており、各所にみえる細字による書入れには文化律に関わる記載が多く、同筆とみられるからである。また朱書による一連番号が施されているのも同様である。
 うら表紙は反古の文面を内にして袋綴している。それには次の文がみられる。

一筆致啓上、私儀、当四月
 朔日親隠居願之通被仰付、
 家督無相違被下置、御留居守^(ママ)
 式番組被仰付、且又去ル朔日、学
 問所数年来実貞出精相勤、
 付、御馬廻格是迄之通相勤、
 様被仰付、重々難有仕合奉存、
 右御吹聴為可被上之、如斯御座、
 恐惶謹言

九月六日

資料

この書翰の筆者および名宛人は不明であるが、案文でなければ、本書の製作者もしくは関係者に宛てられた文書であろう。

つぎに条文作成に関係する資料名を拾い上げてみよう。

御定 ……八〔五〇〕、九〔五一〕

御定書…一〔九〕、二〔四二〕、三〔四三〕、四〔四四〕、
六〔四六〕、十〔二一〕、十一〔二二〕、十二〔二九〕、
十三〔三〇〕、十四〔一八〕、廿五〔五三〕、廿六〔五四〕、
廿七〔五五〕、廿八〔五八〕、廿九〔五九〕、卅〔六三〕、
卅一〔六四〕、卅二〔六五〕、卅三〔六六〕、卅五〔六九〕、
卅九〔七六〕、四十二〔八二〕、四十三〔八二〕、四十五
〔八四〕、四十七〔八九〕、四十八〔二七〕、四十九
〔二二八〕、五十五ノ上〔九二〕、五十五ノ下〔九二〕、
五十七〔一〇三〕、五十八〔一〇六〕、五十九〔一〇七〕
六十〔一〇八〕、六十一〔一〇八〕、六十二〔一七〕、
六十三〔二二三〕、六十七〔一四五〕、六十八〔二七〕、
七十〔二六〕

御定書斟酌…二〔四二〕、四〔四四〕、五〔四五〕、
七〔四九〕、八〔五〇〕、十四〔一八〕、十五〔一九〕、
十七〔三四〕、十八〔三五〕、廿八〔五八〕、廿九

〔五九〕、卅三〔六六〕、卅九〔七五〕、四十〔七七〕、
四十二〔七九〕、四十二〔八二〕、四十三〔八二〕、五十
〔三九〕、五十一〔四〇〕、五十二〔四二〕、五十三
〔四二〕、五十四〔四三〕、五十六〔二〇二〕、五十八
〔二〇六〕、六十二〔一七〕、六十三〔二三〕、六十四
〔三三〕、六十五〔三三〕、六十七〔一四五〕、七十
〔二六〕

寛政之御例…十四〔一八〕、卅二〔六五〕、卅七〔七二〕
寛政ノ御例…十九〔三六〕、廿六〔五四〕、廿七〔五五〕、
廿九〔五九〕、卅〔六二〕、卅〔六三〕、卅二〔六五〕、
卅三〔六六〕、卅七〔七二〕、卅八〔七四〕、四十二〔七八〕、
四十九〔二八〕、五十五ノ下〔九二〕、六十二〔一七〕、
六十三〔二三〕、六十七〔一四五〕
寛政ノ御例斟酌…十六〔三三〕、十七〔三四〕、廿五〔五三〕、
廿七〔五五〕、卅七〔七二〕、六十三〔二三〕
寛政之御例斟酌…四十四〔八三〕、(四十五〔八四〕)、
四十六〔八五〕

寛政斟酌ノ例…十七〔三四〕
寛政ノ趣…十七〔三四〕
寛政 ……廿七〔五五〕、廿九〔五九〕、卅七〔七二〕、

卅九〔七六〕、四十二〔八二〕、四十六〔八五〕、
 四十九〔二八〕、五十五ノ下〔九二〕、
 六十一〔一〇八〕
 寛
 卅七〔五五〕
 安永ノ御例：廿六〔五四〕、廿七〔五五〕、卅七〔七二〕、
 五十五ノ上〔九一〕、五十五ノ下〔九二〕
 安永ノ御例斟酌：卅六〔七〇〕、五十五ノ下〔九二〕
 安永ノ御例：六十一〔一〇八〕
 安永：廿六〔五四〕、廿七〔五五〕、卅二〔六五〕、
 卅七〔七二〕、四十九〔二八〕、五十五ノ上〔九二〕、
 五十五ノ下〔九二〕
 安永律：六十九〔二八〕
 安永寛政律：六十九〔二八〕
 安永寛政ノ御例斟酌：卅六〔七〇〕、卅八〔七四〕、
 卅九〔七六〕、五十五ノ上〔九一〕
 安永寛政ノ御例：四十九〔二八〕、五十五ノ上〔九〕
 安永寛政之御例：五十五ノ下〔九二〕
 追加：十七〔三四〕、廿〔三七〕、廿一〔三八〕、
 廿二〔三九〕、廿三〔四〇〕、廿四〔四一〕、卅六〔七〇〕、
 卅七〔七二〕、卅八〔七四〕、卅九〔七五〕、五十五ノ上

〔九二〕、六十六〔一三七〕
 御定書安永寛政ノ御例斟酌：廿六〔五四〕、廿九〔五九〕、
 五十五ノ上〔九二〕
 御定書寛政安永ノ御例斟酌：六十九〔二八〕
 御定安寛ノ御例斟酌：五十五ノ下〔九二〕
 御定書安永寛政ノ御例：卅五〔六九〕、五十五ノ上〔九一〕
 御定安寛ノ御例：五十五ノ下〔九二〕
 御定書安永ノ御例斟酌：廿九〔五九〕
 御定書安永ノ御例：五十五ノ上〔九一〕
 御定書寛政ノ御例斟酌：廿九〔五九〕、四十九〔二八〕
 御定寛ノ御例斟酌：五十五ノ下〔九二〕、六十二〔一七〕、
 六十三〔一二三〕
 御定書寛政ノ御例：五十七〔一〇三〕
 御定書并前々ノ御例：六十七〔一四五〕
 御定書并前々之御例斟酌：六十八〔二七〕
 安永四年 公儀へ御問合ノ斟酌：卅九〔七六〕
 前々ノ御例斟酌：四十九〔二八〕
 前々ノ御例：五十一〔三九〕
 前々ノ御例：六十七〔一四五〕
 前々御触出：二〔四二〕

御例斟酌…廿九〔五九〕
 公儀御書付…五十五ノ上〔九二〕
 公 ……十七〔三四〕、廿九〔五九〕、卅三〔六六〕
 享和年中類例…卅六〔七〇〕
 享和三癸亥年十一月・文化二乙丑年十月御触直…二四二
 文化元子年御定…卅五〔六九〕
 文化元子ノ年被仰付…卅七〔七二〕
 新律御例…十二〔二九〕
 四奉行…十七〔三四〕、卅七〔七二〕
 御用人…廿六〔五四〕、五十五ノ下〔九二〕、六十七〔一四五〕
 御詔意…十七〔三四〕
 愚案 ……廿二〔三九〕、廿三〔四〇〕

多くは、これまでの諸本に見られたものだが、「公」
 か、「新律御例」、「愚案」など初めて現れる表現もあり、他
 本との異質性を思わせる。

そこで、これまで紹介した写本に見られない書き入れ
 の所在等を紹介しておく。文化律のうち『刑法』を甲
 本、『御刑法牒』（その1）を乙本、『御刑法牒』（その2）
 を丙本として表示する。本文の異同は、あらためて検討
 することとして、順次、典型的な事例を紹介しよう。

1 二〔四二〕では、「祠堂金 書入金 立替金…」とある
 が、他の三本（甲本・乙本・丙本）では、「一借米金
 錢 祠堂金 官金 書入金 立替金…」と続く。
 2 四〔四四〕の書き入れ「公 三十兩…」は三本には無
 く、本書独自に見られる。甲本には下ケ札、乙本に
 は付札として「手鎖」に関するメモが付せられているが、
 本書には無い。

3 七〔四九〕の「公 名主…」は三本には無い。
 4 八〔五〇〕の「御定當人…」は三本には無い。
 5 九〔五一〕の「御定年寄…」は三本には無い。
 6 十二〔二九〕の「此条穿鑿スヘシ」は三本には 無い。
 7 十四〔一八〕の「△御定書二…」は、甲本に無いが、乙
 本・丙本には有る。

8 十五〔一九〕の「譬ヘハ…」は、三本には無い。
 9 十六〔三三〕の「作徳米ト…」は、三本には無い。

また他本には、さらに「一 隠田畑所持之者有之節…」
 とする項目が見られるが、本書にはこれを欠く。

10 十七〔三四〕の「公年期明…」「假令ハ…」「公二江戸…」
 「公二質地…」「田方ヲ…」「廿五俵…」「引當ト…」「公年
 季明キ…」は、いずれも三本には無い。

- 「年季明キ六月…」は甲本・乙本には無いが、丙本には点羽として少し後の位置に見られる。
- 「強欲ノ…」公内濟…「公ニ質地…」寛政ノ趣…は、三本には無い。
- 「コノケ条…」は、甲本には下ケ札、乙本には付札、丙本には点羽として、いずれも有る。
- 「寛政鞭三…」は三本には無い。
- 18 十八「三五」の「タトヘハ…」は、三本には無い。
- 19 十九「三六」の「隠田畑ハ…」は、三本には無い。
- 20 廿「三七」の「私曰…」は、三本には無い。
- 21 廿二「三九」の「愚案…」は、三本には無い。
- 22 廿三「四〇」の「愚案…」は、三本には無い。
- 23 廿四「四一」では、甲本には下ケ札があるが、他本には無い。
- 24 廿五「五三」の「右ケ条…」は、甲本には無い。乙本には別に付札もある。
- 25 廿六「五四」の「安永ノ…」御家中…は三本には無い。
- 26 「右ケ条安永二…」は、甲本には無い。
- 27 「御関所…」は、甲本には無いが、乙本には付札、丙本には御用人点羽として、いずれも有る。

- 「右ケ条御定書…」は、甲本には無い。
- なお他本には末尾に「一 悪事無之出奔之後立歸り候者」の項目がある。
- 19 廿七「五五」の「△隠津之刑…」「隠津出二百俵」△右五軒組合…「△右ケ条…」安永ノ…は、甲本には無い。
- 20 他に、乙本には付ケ札が二点見られる。
- 21 廿八「五八」の「△右ケ条…」は、甲本には無い。
- 22 他に、乙本には張紙・下ケ札・付ケ札が各一点ある。
- 23 廿九「五九」の第一項と第二項の間に、他本では「一 凡て盜賊之類不殘入墨可致事」があり、乙本には付ケ札・下ケ札がある。
- 24 「△右ケ条…」は、甲本には無い。
- 25 第四項と第五項の間に、他本では「一 人家江忍入候盜賊…」がある。
- 26 第五項には、乙本に付ケ札がある。
- 27 「御二家内へ…」安二 土藏…「コノ段…」御二死罪…は、三本には無い。
- 28 「右ケ条安永…」は、甲本には無い。
- 29 「御二 追落…」コノケ条…「常ノ盜賊…」は、三本

には無い。

「△盜賊ノ刑…」は、甲本には無い。

本文「一 五貫文已下 五敲 一 五貫文已上十敲」は、他本とさまざまな異同のある所である。

「公二…」は、三本には無い。

22 卅二六五の「右両ケ条…」は、甲本には無い。

23 卅三六六の「△右ケ条御定書二盜物…」は、甲本には無い。乙本に付箋がある。

「公ノ但書二…」は、三本には無い。

「△右ケ条御定書二家財…」は、甲本には無い。乙本に張紙等がある。

24 卅五六九の「△右ケ条御定書二死罪…」は、甲本には無い。乙本の本条には付箋が多い。

25 卅六七〇は、乙本では「鞭」を朱で「敲」に改めている。他にも見られるので、以下省略する。

26 卅九七五は、乙本には付箋が多い。

末尾に、三本では「一人を勾引候二付其者江疵附候者」が加わる。

27 卅九七六の冒頭に、三本では「一 奉行諸役人之判を似せ造諸渡物等盜取候者」の項が加わる。

「△寛政二八…」は、甲本には無い。

27 四十二「七八」の「△右ケ条安永二…」は、甲本には無い。

28 四十二「八二」の「△右ケ条寛政二…」は、甲本には無い。

29 四十五「八四」の「御定書二…」は、甲本には無い。

30 四十六「八五」の「△右ケ条寛政二…」は、甲本には無い。この条、乙本には付箋二点がある。

31 四十七「八九」の「御定書二…」は、三本には無い。

32 四十九「一二八」の「△右御定書二…」は、甲本には無い。

「右ケ条御定書二博奕…」は、甲本には無い。

「右ケ条御定書二身上…」は、甲本には無い。

33 五十五ノ上「九二」の「△右ケ条安永…」△右ケ条御定書…

書…「△公儀御書付二八…」△右ケ条御定書二兼而て…

…「△右ケ条安永二八…」△右ケ条安永二本主人…

…「△右ケ条御定書二八死罪…」は、甲本には無い。

34 五十五ノ下「九二」の「△右ケ条御定書二引廻…」△

右ケ条御定書二磔…「△右ケ条安永二八…」右親殺…

「△怪我二テ…」△右ケ条御定書二 孫を…は、甲本には無い。

「假令怪我…」は、甲本には無く、乙本・丙本はやや表現が変わる。

- 35 五十七「一〇三」の第一項下段の冒頭には、三本では「吟味の上あやまち二無紛并怪我ノ親類存念相尋候之上」が加わる。他にもこの類は多いので、以下省略する。
- 36 五十八「一〇六」の「△御定書…」は、甲本には無い。
- 37 六十「一〇八」の冒頭に、三本では四項目がある。しかも乙本では、本項は付箋で補われている。
- 「△御定書…」は、甲本には無い。
- 38 六十一「一〇八」の前に、三本では前条との間に四項目が入る。「△御定書…」は、甲本には無い。
- 39 六十三「一二三」の冒頭に、三本では十二項目がある。「△右ヶ条御定書二夫無…」「△右ヶ条御定書二遠島…」は、甲本には無い。
- 40 六十六「一三七」は末尾に、三本では「追加 一同右 以下罪ヲ犯シ候者」の項が加わる。
- 41 六十七「一四五」の「御例ナシ…」は、三本には無い。乙本には付箋がある。
- 「一 火刑 右同断」は、三本では「一 火罪 引廻之上取上御仕置場ニおゐて火罪可申付捨札番人右 同断」とある。
- 「一 肆 肆場所之義追テ伺出ヲ以可申上候 ○御用

- 懸」は、甲本では下ヶ札に、乙本には無い。
- 「追放ノ義…」は、三本には無い。別に甲本に下ヶ札、乙本に付箋・下ヶ札がある。
- 「一 敲 五敲ヨリ三十敲迄」は乙本と同じだが、甲本は「一 鞭刑 三鞭ヨリ三十鞭迄」、丙本は「一 鞭刑 三敲ヨリ三十敲迄」とある。
- 「一 入墨」には、甲本に下ヶ札がある。
- 最後の六十八以下は、他と体裁を異にする。上段の張り紙の、
- 42 六十八「二七」の「御定書二主殺」以下は、三本に無い。
- 43 六十九「二八」の「安永律」以下は、三本には無い。下段の張紙の、
- 44 七十二「二六」の「但御定書二八関所破入」黨ヲ組法ヲ犯シ」以下は、三本には無い。
- 本文の厳密な校訂は他日を期すことにして、顕著な異同は以上の通りである。
- ここからも、本書は単なる文化律の抄本ではなくて、文化律の編集過程にかかわる可能性を多分に有するもの

料

であり、既紹介の諸本の中では、乙本に親近性を有することが明らかになったであろう。

資

(44) 弘前市立弘前図書館『岩見文庫郷土資料総目録』(昭和五七年)、八一頁。

(45) 前号解題参照。

(46) 本稿(六)『大阪経済法科大学法学論集』第十四号(一九八六年)所収。

(47) 宮館蔵 印については未詳である。